序　章　本書の目的と問題関心　9
1　戦後政治における官邸主導
2　明治憲法から新憲法へ
3　吉田茂イメージの再定義
4　歴史のなかの「企画」概念

第一章　明治憲法下における戦時体制の模索　27
第一節　挙国一致内閣と総合官庁の出現　28
1　総合官庁の構想
2　企画院の設置と「企画」概念
3　閣議の「事前審査」
第二節　企画院の始動と行政機構の機能変容　42
1　予算編成と総合官庁
2　「金の予算」から「物の予算」へ
3　内閣官房と内閣長官会議
4　次官会議の官制化構想
第三節　東條内閣における戦時体制の再編と終焉　58
1　近衛新体制の挫折
2　戦局の悪化と企画院の限界

3 企画院の廃止と戦時体制の再編
4 明治憲法体制の終焉

第二章 占領体制の開始と東久邇・幣原内閣

第一節 GHQとの連絡ルートの模索 94
1 終戦連絡事務局をめぐる対立
2 「皇族内閣」の総辞職と幣原内閣の成立
3 吉田による終連の掌握

第二節 連絡ルートにおける統合化と分立化 105
1 各省における連絡ルート（1）——大蔵省終戦連絡部と大臣官房
2 各省における連絡ルート（2）——商工省終戦連絡部と総務局
3 占領体制化における連絡と統合

第三節 経済危機緊急対策の展開過程 117
1 終戦後のインフレと内閣官房・大蔵省
2 経済危機緊急対策の実施
3 経済危機緊急対策の挫折

第三章 第一次吉田内閣と経済安定本部 141

第一節 経済安定本部の設置 141
1 総合官庁の設置問題
2 吉田内閣の成立と食糧危機

3 経済安定本部をめぐる攻防
4 吉田の権力基盤と次官会議
第二節 石橋グループの挑戦 161
1 膳長官の就任と経済安定本部の発足
2 軍需補償打切り問題と「物の予算」の復活
3 石橋グループの形成
4 石橋グループとESSの対立
5 次官会議の政治化
第三節 経済危機の発生と吉田の挫折 180
1 吉田昼食会と傾斜生産方式
2 社会党との連立交渉
3 後任長官問題と吉田不信任
4 吉田の次官会議への介入
第四章 中道連立内閣と新憲法の施行
第一節 経済安定本部の強化拡充 207
1 マッカーサー書簡に至る経緯
2 強化拡充の政治過程
3 新憲法の施行と経済安定本部
第二節 片山内閣における政治的混乱 222
1 片山内閣と和田安本の成立

2 和田安本の始動
3 和田安本への包囲網
4 首相官邸における機能不全
5 片山内閣・和田安本の崩壊
第三節 過渡期としての芦田内閣 244
1 芦田内閣の成立と和田安本の解体
2 経済安定本部の縮小改組問題
3 政治力なき安定と中間安定計画
第五章 吉田の復権と官邸主導の確立
第一節 吉田の復権と占領政策の転換 270
1 第二次吉田内閣の成立
2 経済安定九原則の中間指令
3 経済安定九原則の受入れ態勢
第二節 総選挙の勝利とドッジ・ライン 285
1 第三次吉田内閣の成立
2 ドッジ・ラインと大蔵省
3 通商産業省の設置
第三節 外相官邸連絡会議 298
1 クロス・ナショナルな連合の分断
2 経済安定本部と「企画」概念の終焉

3　吉田茂の官邸主導

終　章　吉田茂と戦後政治体制

1　戦時・占領の時代

2　吉田茂と二つの憲法イメージ

3　戦後政治体制の形成

あとがき　341

人名索引　348